

脱帝国のリプロダクティブ・ジャスティスへ



日本女性学研究会
2026年5月例会

2026年
5月10日(日)
午後1時半～午後4時半

オンライン開催 [ZOOM]

参加登録〆切 5月6日(水)

脱帝国のリプロダクティブ・ジャスティスへ

性と生殖・再生産と 継続する日本の帝国主義

話題提供 おおむろ えみ **大室恵美** (日本女性学研究会
お茶の水女子大学大学院博士後期課程)

コメント そんよのく **宋連玉** (文化センターアリラン)

この例会では、昨年に翻訳出版された『リプロダクティブ・ジャスティス: 交差性から読み解く性と生殖・再生産の歴史』の訳者のひとりである大室恵美さんから、『女性学年報』で発表されたご自身の論文とあわせ、「女性」の身体に権力が介入してきた歴史に関する話題提供をいただきます。

リプロダクティブ・ジャスティスという枠組みは、中絶の権利に注力してきたリプロダクティブ・ヘルス／ライツの限界を克服しようとするもので、子どもを産まない権利だけでなく産む権利、健康で安全な環境で子どもを育てる権利も求めます。こと日本でリプロダクティブ・ジャスティスの実現を目指そうとするならば、1945年までアジア各地を占領・植民地として統治下に置いた帝国日本の歴史とも切り離せない数々の問題が浮かびあがってきます。今回の例会は、植民地朝鮮とそこで生きた女性たちの経験に即して、これらの問題を考える機会となるはずで

す。コメントーターとしては、宋連玉さんをお迎えします。宋さんは、植民地朝鮮の女性たちや日本軍「慰安婦」に関する研究に長年とり組んでこられました。今回の『年報』大室論文へのコメントも担当なさいました。

詳細裏面 ↗

参加費 1000円

入金〆切 5月8日(金)

(日本女性学研究会会員は無料)

★ 参加費は以下の口座にお振込ください。

郵便振替 01010-8-35811
「日本女性学研究会」

★ すべての参加者に、安全な運営のためのご配慮とご協力をお願いします。

要申込

★ 右のQRコードから
ご登録ください。→



メールでの申し込み・お問い合わせ

wssj.voice@gmail.com

★ 一両日中に返信がない場合は再送ください。

担当

シリーズ「リプロダクティブ・ジャスティス」企画集団

★ このシリーズで例会企画をつづけるため、
新たな分科会の結成を検討しています。

★ 詳細なご案内は裏面に掲載しています。

脱帝国のリプロダクティブ

日本女性学研究会
2026年5月例会

・ジャスティスへ

話題提供者紹介

大室 恵美

おおむろ・えみ

◆お茶の水女子大学大学院博士
後期課程。ジェンダーの視点から
植民地朝鮮の医学史に取り組ん
でいます。主要論文に「身体で交
差する帝国の知とジェンダー——
京城帝国大学産婦人科教授・高楠
榮による「体質研究」を事例に」『女
性学年報』第46号。

宋 連玉

そん・よのく

◆文化センターアリラン所属。朝鮮
近現代史のとくに植民地主義とジ
ェンダーとの関連に焦点を当てて
研究してきました。最近のテーマは
「慰安婦」を含む戦時性暴力被害
者を自分の問題として捉えるため
に、戦後民主主義も含めて、どの
ような思想を構築していくかにつ
いて考え続けています。

★ 話題提供者の大室恵美さんの論文
「身体で交差する帝国の知とジェンダー
——京城帝国大学産婦人科教授・高楠榮による
「体質研究」を事例に」は、右のQRコードから
ダウンロードが可能です。



～シリーズ「リプロダクティブ・ジャスティス」企画集団について～

今回の例会は、植民地朝鮮に生きた女性たちの経験に迫るというテーマで行なわれますが、日本からリプロダクティブ・ジャスティスを考えるにあたっては、このほかにも数多くの課題にとり組む必要があることは言うまでもありません。そこで、継続的にこのテーマで話しあい、年1～2回ほどの例会企画を目指すため、研究会有志で新たな分科会の結成を検討しています。

今後の企画のテーマの候補としては、以下のものが挙がっています。

- ・朝鮮学校とリプロダクティブ・ジャスティス
- ・帝国以後の性売買／性労働

企画集団へのご参加を希望される方は、呼びかけ人のいずれかにご連絡ください。現時点で日本女性学研究会の会員かどうかは問いませんので、お尋ねなどお待ちしております。

omuroemi@gmail.com (大室 恵美)

makino.yo.acthist@gmail.com (牧野 良成)